

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



例年より遅く開花した小梅
(3月16日 大教会神苑で)

立教175年
3月号

学生生徒修養会に

積極的に参加を

学生層育成者講習会 開催

大教会学生担当委員会(吉岡誠一郎委員長)

は2月21日、木村信也先生(本部学生担当委員・北大教会長)を講師に迎え、大教会2月月次祭後に「学生層育成者講習会」を開催、約200人が参加した。学生層をはじめとする道の後継者育成の重要性を理解すると共に、活動を広めていくために毎年開催しているもの。

木村先生は「自分の中で道一条で通るのを決めたのは学生生徒修養会(大学の部)に参加したお陰」と学生生徒修養会への積極的な参加を話された。講話要旨は次の通り。

●学生層の育成は「神一条の精神」で

昨年、11月25日、学生担当者大会において、真柱様より「学生を育てるにあたっては神一条の精神が大切」だとお仕込みいただきました。考えてみれば、教祖のお示しくださったひながたは、人間思案では容易には通れないものです。

しかし、秀司様・こかん様を始め先人・先輩にお教えくださったことを思案すると、例えば人に笑われしられたり、世相とかけ離れたり、先行きが案じられても、あらゆる人間思案を絶ってひながたを通らせていだけば無事に親神様はお連れ通りくださると思います。

●ひながたを通ろうとすることで、信仰は伝わる

立教の時、秀司様は今の高校2年生、こかん様は満1才、正にお子様方が学生の時代に、教祖はひながたを通られ、お子様方に信仰を伝えられました。

今の私たちも、先ず自分が、教祖のひながたを通る姿を見せることによって、子供・若い年代に信仰を伝えることが大切です。

「ひながたを通ろうとすることで、信仰は伝わる」ということを肝に銘じなければなりません。

私は、秀司様やこかん様は教祖伝の中だけの世界であって、自分が実際に接している学生とは別だと思っていました。実際に、学生層に携わるようになって、それがなかなか難しくても、できるところから教祖のひながたを辿らせていただくことが大切だと思うようになりました。

●学修で心をたすけられた

私の学生時代の話しですが、18年前、20才の時に学生生徒修養会(大学の部)に参加しました。

父に参加を勧められ、本当は参加したくなかったのですが、渋々参加しました。

そういう気持ちで参加したのですが、参加して本当に良かったと思えました。

学修に参加したお陰で、自分の中で道一条で通る心が決まり、自分の人生はそこで変わった、転換点になったと思います。

何が良かったのかといえば、班の雰囲気が大変暖かい——おぢばだからだと思いますが、自分の悩みが何でも話せるし、みんなが人の悩みを解決できるように、必死で聞いてアドバイスし合う、そういう暖かい雰囲気がありました。

本部の朝づとめの後に教祖殿でまなびがありますが、班の一人がまなびに出ようと言いだしました。その方は卒業したら就職も決まっています。うなると修養科へもなかなかいけません。それで何とか一寸でも十二下りがおどれるようになりたいとのことでした。

学修では参加・不参加は自由ですが、私は大教会の長男で後継者の立場だったのに反対しました。

恥ずかしかったのですが、班の雰囲気が良かった。



学生生徒修養会参加を促される木村先生

たので、勇気を出して正直に言いました。実はよろづよ八首しかでをどりができなかったのです。

しかし班の人は誰一人信じてくれませんでした。結局、班みんなでまなびに行くことになりました。その時は一・二下りでした。いきなり変則的で早いで必死でおどりました。終わってから友達から「ほんまにできなかったなあ」といわれました。

その当時は、大教会の後継者というプレッシャーもありましたが、おどれないことを正直に言える暖かい仲間でした。

また、一週間おちばにおいていただけたからこ

そ、道一条で進もうと思うきっかけになりました。その時、心をたすけていただいたのではないかと、10年以上経ってから気が付きました。

私が変わったから、悟りができるようになった、また、本部に勤めさせていただいたりしたので、「心」のことが分かってきたのかとも思います。

●**本当のたすかり——心がたすかるということ**

教祖伝逸話篇の147に、年来の足の悩みをすつきり御守護いただいた山本いささんが、そのあと手が少しふるえて、なかなかよくなるので「お息をかけて頂きとうございます」と願った、というお話があります。

これに対して、教祖は、「息をかけるは、いと易い事やが、あんたは、足を救って頂いたのやから、手の少しふるえるくらいは、何も差し支えはない。すつきり救けてもらうよりは、少しぐらい残っている方が、前生のいんねんもよく悟れるし、いつまでも忘れなくて、それが本当のたすかりやで。」と仰せられて、結果として、教祖は息をかけられませんでした。

私は、学生の時には、身上が助かる・助からないが大きな問題だと思っていましたので、この話に違和感を感じていました。なぜ息をかけられなかったのか？

社会に出るまでは、自分の心のことより、身上

の珍しいたすかりが大事だと思っていました。卒業して社会人となり、気持ちの問題・心の問題、それがうまくいかないと一番大変だと感じるようになりました。

修養科を出、社会に出て、当初は勇んでいましたが、半年・1年経つと、どうしても勇めなくなりました。明日こそは勇もうと思うのですが、勇めない。それを繰り返していました。

その時、「お道は身上たすけであるけれど心だすけの道」と聞いていましたが、初めてそう思いました。

学修の時に道一条の決心ができたのも、神様に心をたすけていただいたからだと思います。

●**おちばでたすかった喜びを人に伝える**

人様に自分のたすかった話しをさせてもらったらいいと教えられています。

私の場合、学修でたすかったのですから、そのことを人様に話してできる。何よりおちばだったから、ご守護いただいた。やはり、おちばの理。

修養科で三ヶ月間通られたら、その真実を神様が受け取ってくださる。私の場合は一週間で短いけれど、心をたすけていただいたのです。

自分なりに悟るのは、教祖の50年のひながた、それが私の心をたすけていただいたと思うのです。

その50年はどんな年であったか？

二十数年は誰も教祖の話しを聞かなかった。けれども、自分が教祖にない命をたすけていただいで、ご恩報じの心で足繁くお屋敷に帰った人も多数おられるのです。

迫害の中に帰ると、教祖は、我が子が家に帰ってきたように、心から温かく「よう帰ってきたなあ」と仰った。その年限が何年も続きました。

昔は、教祖が人間の姿でおちばにいてくださったけれども、今は直接お声やお姿は拝せない。今では「おちばでお迎えする」立場に、先生方になった。温かく迎えられる経験があるから自分も同じく温かく迎えることができる。

何年経っても、人が変わっても同じです。

今でもこの雰囲気は変わらず、教祖がひながたの親として通ってくださいましたから、(修養科・講習・おちばでのひのきしんとか)おちばで何日かおられた方は、何かしら心が「またがんばろう」と思うのです。

このおちばでの経験が大切だと思います。

私の場合はたまたま学修でした。

●おちばがえりのススめー理づくりの大切さ

今の高校生・大学生がおちばに何日かいるということはなかなかできません。教会長子弟でもなかなかいけない。

春の学生おちばがえりを誘われても一週間の休みがとれない。しかも就職が決まったら尚更難しい。

しかしおちばで心の経験を得たら、温もりを知ったら、「またおちばへ帰ろう」となる。

やはりおちばにおいていただき、教祖の温かさを感じてもらおうことが、何より素晴らしいのです。そのことがその人の財産になるのです。心が楽になって再スタートができるのです。

実際に自分がおちばでたすけていただいたことは事実です。珍しいたすけのある所を知っているのですから伝えることが大切です。おちばがえりの機会を持たせてもらうことが大切です。

ですから、若い方をおちばに連れて帰ってほしい。

いのです。

相手が学生であれば学修に参加してもらい、教祖の温かさを知ってもらうのです。また三日講習会・修養科へもぜひとも身近な方にお勧めいただきたい。

子供のため、人様のためにどれだけ神様のことが出来るかが大切だと思います。若い子におちばに帰ってもらう。自分の子供、甥を連れて帰る。努力するのです。

神様に働いて貰わないとおちばに連れて行けない。ですから理づくりをすることが大切です。どうぞよろしくお願いいたします。

《以上要約》

教祖130年祭に向け
おつとめ奉仕人の増員を
教会長講習会
開催

教祖130年祭に向け、各教会のおつとめ奉仕人増員目指し、邁進していることからの思いから、教理勉強を中心の開かれたもの。昨年つとめられた創立120周年記念祭の慰労会も兼ねて行われた。

大教会布教部(中村剛部長)は2月26、27の両日、詰所で「立教175年教会長講習会」を開催、105人が参加した。

開講に先立ち、大教会長様は「この講習会をそれぞれの教会がおつとめ奉仕人のご守護を頂くひとつのきっかけにして欲しい。真のようぼくとはにをいがけ、おたすけの出来る人で



十全の守護・八つのほこりについての
教理勉強も行われた

あり、それがおつとめ奉仕人増員を計る本来の意味です。おさづけの理を拝戴された後は、よふぼくとして教会での育てが肝心。おたすけは常に親神様、教祖にお働き頂ける日々の理づくりが必要で、その一つ一つが理のご用になるように心の研鑽をすることが大切。そして、教祖130年祭に向かっての歩みは親神様、教祖にお喜び頂き、お働き頂ける為の旬でなければいけない」と挨拶。

引き続き、瀬戸嗣治先生(川之江部属・寿布教

所長)が教理勉強として「十全の守護と八つのほこり」の関係について講習会用の資料を使用して話された。

この後、会場を「大和高原」に移して創立記念祭への歩みを振り返り、慰労を兼ねた会食が行われ、詰所に宿泊した。

翌日は、本部朝づとめ参拝前に回廊拭きひのきしんを行い、詰所での朝食後、教祖130年祭に向けての新たな歩みを胸に閉講した。

**第2回 英文パンフレット
にをいがけ(広島)**
3月9日——海外部

「こんなに人が少なかったっけ」というのが2年降りの印象だった。一昨年来たときは約1時間で100部のパンフレットを配布したが、今年は海外からの旅行者が少なく感じた。聞いてみると震災の影響だとか。それでも部員4人で海外からの人を見つけては天理教の説明を加えて約1時間20分で40部程のパンフレットを手渡した。オーストラリア・アメリカ・フランス・ドイツ・タイ・フィリピン・西アフリカなど様々な理由から日本へ訪れた人達に少しでもお道の教えを知って貰いたい気持ち

ちで取り組んでみた。私の恩師から世界にキリスト教が広まった理由の一つに、古代ローマ帝国時代に世界からの観光客が訪れた。そのときローマにキリスト教が伝わっていたので観光客に伝わり、その人達が世界に帰って広めたために世界に伝わったと聞いていた。手渡した人がほんの少しでも教理の一端を知り、陽気ぐらしに繋がる生活を世界の地で歩まれることをこれからも楽しみの一つとして続けて行きたい。

(海外部長 上原志郎)



ドーム近くで世界平和に祈りを込めて



新委員長の思いに耳を傾ける

青年会笠岡分会(上原繁次委員長)は、3月3・4の両日、大教会で委員研修会を開催した。これは、4月より発足予定の新委員会(上原明勇新委員長)の委員を対象としており、18人が受講した。研修会ではまず、大教会長様より、会活動を進

青年会 委員研修会 開催

3月3日・4日



目指すべきところを熱く語り合う

めるに当たったの心構えなどについてお話しがあった。また翌日には、上原明勇新委員長より、今後の活動についてのお話があり、その後、秀平元一委員より、委員の心得についてのお話しがあった。
お話しのみならず、お話しとあわせて、様々な意見が積極的に交わされた。
受講者らは、委員としてつとめる決意を新たに、会活動に対する士気を高めた。

・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介
③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字)

題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。

俳句等は一句からでも結構です。

寄稿先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

メール：tenkasa@yahoo.co.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



修養科終了時の声



修養科で学んだこと

新山邑分教会 国定 恵

修養科で三ヶ月間を過ごして沢山のことを学びました。その中でも「笑顔」「素直な心」「つなぎ」の大切さを改めて感じました。人とまじれることが好きではなく一人で行動することが多かったのですが、修養科ではみんな、誰かのことを想って行動していて、人は一人では生きていけない、支え合って助け合って生きているんだということを実感しました。そして、支え合い助け合っていくには素直になって低い心でさせていただくという気持ちが必要で、そうしていると心も勇み自然と笑顔になっていく自分がいました。これからは、素直な心で笑顔を忘れずに人と接し、人と人、人と地域、人と教会をつなげることが出来たらなと思います。おぢばに伏せ込み、親神様、教祖にもたれかかって通らせていただいた三ヶ月間でいろいろ御守護も見せていただきました。この貴重な経験をいつまでも忘れることなく、日々勇んで過ごしたいと思います。そして、困っている人や身上の人におさづけの取り次ぎをしていきたいと思

修養科を終えて

笠尋分教会 田邊 充根

修養科を終えて入る前は天理教の事はほとんどわからず修養科も何をする所かはっきりわからず入らせてもらいました。不思議と何もわからないのに不安などはなく詰所につくと少しの緊張とわくわく感であり感じた事のない気持ちになりました。そして修養科生活が始まりすぐ天理教の歴史について興味が湧き、いつも自分から勉強したい自分が進んで勉強している事に驚き、修養科の先生や教養の先生とわからない事を話し、一つずつすんなり頭に入っていくとても充実した三ヶ月を送れました。

今では修養科にくる半年くらい前に、離婚していましたがそれについても自分なりに答えが解かり、これからの人生においての人間付き合いや、考え方も大きく変わりました。その中でも一番身を持って感じた事は、ぢばの尊さです。

修養科のクラスでも不思議なご守護が何人にもあらわれ今まであまり気にしていなかったおぢばの尊さを感じ見る事ができた事です。

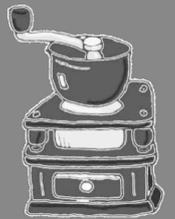
修養科を終えて用木となりまだ出来る事は少ないですができる事を少しずつやり、いつまでもおぢばと繋がっていくと思います。

修養科生活ろヶ月を振り返って

輝美濃分教会 谷内 きよ

私は、ある事情から修養科を志願しました。それまでも理の親・自教会の会長さんより修養科の話は出ていたものの、仕事は楽しいし任される事も多くなってきた矢先に3ヶ月も職場から離れるのは無理だから、せっかく家から自転車で5分と近い事などこんな条件がいい所は無いに仕事を辞めなきゃ、次探して働くとなればまた一からか……と色々思うとなかなか行く気持ちにはなれませんでした。でもある悩みが頭から離れず泣いてばかりの日々になったので何か解決のきっかけになるかなという思いと気分転換になるかなと思いつつ修養科へ行く事にしました。いざ修養科生活が始まると、来たからにはがんばろうと思っているのにいきなり身上で寝込む日々やいろいろあって勇めない日がありました。そのたびに教養の先生や同じ期の子に話してアドバイスをもらいなんとか3ヶ月終える事が出来ました。この3ヶ月で「心の成人」が大切なことを学びました。低い心とつなぐ心が私にはまだまだ足りない事も分かりました。ありがたい事に、仕事は休職出来たすぐ働けます。働きながらは大変ですが、しっかり教会につなぐって家庭では夫をたてて低い心を忘れずに、この3ヶ月が無駄にならないようがんばっていききたいと思います。

談話室



子のつとめ II

稲富士分教会よふぼく 須毛田 英尋

今年3月号(23年かさおか誌)におふでさきのある一句を引用させて頂き、人間は神様の話を真実聞いて通らないと大変な天災に遇い、そしてその理由を私なりに書かせて頂いた。人間のしんじつ神を思わない高慢な心を天災によって知らせようとされている次の一句である。

このはなしなんとをもふてきいている

てんび火のあめうみわつなみや 六 116

また、

こらほどの月日の心しんばいを

せかいぢうハなんとをもてる 六 117

そして奇しくも同三月十一日人間社会を飲み込むような大津波に見舞われ、全世界を震撼させた。益々ここに我々天理教信者は天意を悟らねばならないと思う。

たんくとなに事にてもこのよふわ

神のからだやしやんしてみよ 三 40

にんけんハみなく神のかしものや

神のぢうよふこれをしらんか 三 126

この世も人間も神のぢうよふになるのであって神を思わない人間などの思う様にはならないのである。人は往々にして幸せを思い誤り他人より優れ、他人より豊かになろうとしてそのため常に勝ちにこだわる。

てがけからいかなをふみちとふりても

す彘のほそみちみ彘でないから 三 34

にんけんハあざないものであるからに

す彘のみちすじさらにわからん 三 35

神を思わない勝ち負けに拘泥した争いや進歩の行く末をかように案じておられる。誠に現代文明、否人の心の大きな転機である。ここに天意を人間には誠真実の心が求められている、と悟るべきだ。おふでさきにしんじつは百十七度書かれています。

この世は神様のしんじつ御心の賜物なのだから、人間にもしんじつの心が求められている事が悟れる。その真実の理によってのみ心の自由自在が叶えられるのであって、人に勝って叶えられるのではない。天理教は世界が助かる真実誠の教えと言われるべきと思う。また、神を思わず人に勝ち人の上に立ち世の中を自分の思う様にしようとする人をざんねんに思われ、おふでさきに上とか高山、とうじんと言い表され、

高山ハせかい一れつをもうよふ

まゝにすれともさきハみ彘んで 三 48

高山のしんのはしらハとふじんや

これが大一神のりいふく 三 57

いまゝでハからがにほんをまゝにした

神のざんねんなんとしよやら 三 86

をなじきのねへと彘だとの事ならば

彘だハをれくるねハさかいでる 三 88

いままでわからハ彘らいとゆうたれど

これからさきハをれるはかりや 三 89

にほんみよちいさいようふにをもたれど

ねがあらハればをそれいるぞや 三 90

見える物でなく見えない根を大切にするしんじつ。にほんとはそういう誠真実。一見弱いもの様に思われる。しかしこれこそ親神の心に通うのであるから、真にそのまま受け取って頂くことができ、ながい眼で見れば、これほど堅く強いものはない。――誠程強いものはない、誠は天の理である。誠であれば、それ世界成程と言う。――教典第八章みちすがら

ここに全教こぞって成程の人にならせて頂く事が急務である。

「為せば成る 為さねば成らぬ何事も

成らぬは人の為さぬなりけり。」

上杉鷹山 米沢藩(山形県)藩主

立教175年 定期巡教表

教会名	巡教月日	巡教員	教会名	巡教月日	巡教員	教会名	巡教月日	巡教員
廣 町	2月13日	大教会長様	香地華	2月 9日	岡本久善	大江橋	3月 5日	門脇元教
福 廣	2月 7日	上原志郎	真 金	2月11日	大教会長様	品 治	3月 7日	笹尾正治
福 勇	2月11日	門脇元教	仲 條	2月 8日	谷内伸自	久 福	2月 8日	岡崎真一
福 芦	2月 9日	大教会長様	稲 倉	2月13日	吉岡 壽	久 津	2月 9日	佐藤道孝
福 満	2月 8日	中村 剛	稲 瀬	月変更	吉岡 壽	呉 福	3月 5日	大教会長様
福 岩	2月12日	吉岡 壽	稲富士	2月15日	中村 剛	鶴 南	3月 8日	吉岡 壽
西 村	3月10日	中島誠治	稲 讚	月変更	大教会長様	鶴 眞	3月10日	岡崎和夫
福 年	2月 7日	中島誠治	門司港	2月12日	佐藤道孝	川島郷	3月10日	笹尾正治
引 野	3月 6日	上原志郎	大恵山	2月12日	岡本久善	鴨 方	3月 6日	門脇元教
福 昭	2月11日	岡本久善	東水島	2月10日	岡崎真一	作 備	3月 6日	笹尾正治
福 春	3月 5日	大教会奥様	高児島	2月 5日	大教会長様	輝 華	3月13日	中村 剛
福 中	3月12日	岡本久善	高 丸	2月 9日	吉岡 壽	錦ヶ原	2月 3日	佐藤道孝
福富士	2月10日	笹尾正治	出 雲	3月11日	上原繁道	行 藤	2月11日	岡崎真一
福 東	2月 9日	谷内伸自	瑞 雲	2月 6日	大教会奥様	眞 府	3月 9日	大教会奥様
東福山	3月 6日	中村邦義	海潮川	2月 8日	大教会奥様	吉 舎	3月 4日	上原繁道
福 南	3月13日	吉岡 壽	錦 洋	2月14日	上原志郎	清 嶽	3月 5日	笹尾正治
福 順	3月11日	中島誠治	米 府	2月15日	上原志郎	上小畠	3月10日	大教会長様
福 節	3月 8日	大教会奥様	弓ヶ濱	2月 8日	岡崎和夫	木津和	3月 6日	谷内伸自
福 備	2月 3日	中村 剛	西 伯	2月 9日	岡崎和夫	國 須	3月 7日	中村 剛
福 輝	3月13日	中村邦義	米 美	2月 5日	佐藤道孝	上吉野	3月12日	杉原博之
坪 生	2月 5日	上原繁道	伯 仙	2月10日	岡崎和夫	上 備	2月 8日	上原繁道
八 尋	2月10日	佐藤道孝	照 雲	2月 6日	佐藤道孝	河 佐	3月 4日	岡本久善
深 安	2月 6日	中村 剛	松 都	2月 7日	大教会奥様	上川邊	3月12日	大教会長様
笠 尋	3月 3日	岡崎真一	樺 島	7月 3日	岡崎和夫	甲 井	3月 6日	岡本久善
芦 品	2月13日	門脇元教	新輝豊	2月 3日	大教会長様	上 父	3月 7日	谷内伸自
安 那	2月 8日	佐藤道孝	亀田山	2月12日	田中隆之	阿木行	2月 2日	杉原博之
芦田川	2月 3日	杉原博之	出雲川津	3月10日	上原繁道	宇津戸	3月 5日	田中隆之
三 郡	2月10日	谷内伸自	天場山	3月 8日	中村邦義	河 面	3月 8日	門脇元教
芦 常	2月 5日	中島誠治	簸ノ川	3月10日	中村邦義	府 鮮	3月13日	岡本久善
芦加茂	3月 6日	大教会奥様	多古浦	2月13日	田中隆之	府世原	2月12日	岡崎真一
惠 陽	3月14日	佐藤道孝	瑞 北	3月 9日	中村邦義	神 驛	2月 5日	岡崎和夫
陽 實	3月12日	吉岡 壽	雲 東	2月11日	田中隆之	神 免	3月 8日	谷内伸自
御 野	2月 8日	中島誠治	呉 中	2月 8日	杉原博之	葦 沼	2月 7日	上原繁道

二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様の子供かわい第一条の親心溢れる御守護と「世界一列救きたい」とのお導きを頂いて日々は結構に恙なくお連れ通り下さいます事は誠に有難く勿体ない極みでございます かしながら世の多くの人々は「しやんせよやまいとゆうてさらになし神のみちをせいけんなるぞや」との思召が分からずただ闇雲に身上や事情を怖れ心を曇らせています事は残念でなりません 私共はその心得違いの理を一人でも多くの人に伝えようと日々「かしまのかりもの」の御教えを心に朝夕に御礼申し上げ自らの心の埃を払いつつ御恩報じを思い念じてたすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日はこれの笠岡にお許し下さいました御祭日でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び感謝の心一杯に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて二月の月次祭を執り行わせて頂きます

御前には寒さ厳しき中も厭いませす 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し 日頃の御高恩に言改めて御礼申し上げます 尚も変わらぬ親心にお縋りする状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて当笠岡に於きましては教祖百三十年祭に向け各教会のおつとめ奉仕人増員を目指し成人の歩みを進めさせて頂いております 増員の為にはにをいがけおたすけに励ませて頂き横への布教をさせて頂くのはもちろんですが併せて縦への伝道もして行く必要があります 中でも一番難しいとされる学生層への育成が急務でございます 本日は祭典に引き続き 学生層育成者講習会を開催させて頂き 育つのを待つのではなく 育てる事への大切さを再確認して 今まさに進級進学 又卒業就職等の転機を迎える子供達にしっかりと声掛けをして道の後継者としての育成に繋げていく所存でございます 又今月二十六日、七日と教会長講習会を開催 そして今月に引き続き来月も部内巡教をさせて頂き 更におつとめ奉仕人増員に向けての動きを活発化させて頂く所存でございます

何卒親神様には何でもどうでも親に喜んで貰いたいとの親孝心一筋に たすけ一条の御用に励む皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上自由の御守護を賜り 一人でも多くの人に「かしまのかりもの」の理を気づかせて頂き 御恩報じを願う人が弥増してお望み下さる陽気ぐらしの世の状へと一日も早くお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

控	胡	三	小	す	太	拍	ち	笛	て	お	地	役割	祭								
													扈	主							
え	弓	味	琴	りが	鼓	子	ゃ	ん	を	と	方	区分	講	者							
上原順子	今川佐智子	虫明好美	浅野明教	河原節喜	中島誠治	上原澄雄	岡崎和夫	高木昭祥	門脇郁子	田中ますみ	大教会奥様	上原繁道	岡本久善	大教会長様	上原浩	杉原博之	佐藤道孝	学生層育成者講習会	岡崎真一	中島誠治	大教会長様
門脇加津	岡崎豊子	佐藤香苗	田中隆之	吉岡誠一郎	上原浩	三島渉	山野弘実	武内清明	笹尾一美	中村幸子	高田賀代子	上原志郎	谷内伸自	吉岡壽	虫明立生	岡崎真一	中村邦義	次月講話	指図方	賛者	赤木素志
高木孝子	谷内美知子	内海安子	田林久嗣	岡崎輝彦	山田敏教	森本忠善	西江昌直	今川昌彦	中村初美	横山小智	武内正美	田中隆之	笹尾正治	中村剛	横山逸郎	門脇元教	上原繁道	杉原博之	岡本久善	浅野明教	赤木素志

立教百七十五年 二月月次祭 祭典役割表

<神事部>

○神殿奉仕当番について

・いろいろな事情があると思いますが定められた当番日に合わせておつとめ下さい。
 ※当番のない日……2日、3日、6日、16日、23日、30日

<布教部>

○「感謝 慎み たすけあい」の横断幕が新デザインにて頒布

- ・500cm×90cm 15,000円
- ・333cm×60cm 8,000円
- ・詳細は3月4日付天理時報2ページに掲載

○教祖ご誕生祭詰所受入れひのきしん

期 間 4月17日(火) 昼食~20日(金) 昼食まで
 各ブロック1人 計6人

○全教一斉ひのきしんデー

4月29日(日) 本年は提唱80周年です。参加者増員につとめて下さい。29日に参加出来ない場合は他の日に参加して頂き参加報告して下さい。報告書は必ず提出して下さい。

○天理時報増部について

少しでも増部お願いします。新よふぼくには1年間無料配布されますがその後も継続して購読して頂けるよう丹誠をお願いします。

<青年会>

○ひのきしん隊

期 間 6月1日(金)~24日(日) 16歳以上で24日間つとめられる健康な方。
 本年心定め14人。

大教会だより

◎第848期修養科

自 立教174年12月1日
至 立教175年2月27日

*教 養 掛

三ヶ月間 北川 治史
(大教会准役員・
稲倉分教会長)

一ヶ月目 福 島 泰 道
(瑞北分教会長)

二ヶ月目 豊 田 宏 哉
(府中市分教会長)

三ヶ月目 掛 谷 宣 和
(坪生分教会長)

*修 了 者

輝美濃 谷 内 き よ

新山邑 国 定 恵

笠 尋 田 邊 充 根

◎お知らせ

連載中の『温故知新』は、都合により、先月に続き今月もお休みさせていただきます。

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌四月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「芽」、笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されてきましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

秀 詠 川島郷分教会前会長 香取敏子さん

種通り心通りの芽生えあり

佳 詠 東悠分教会前会長夫人 田林美智子さん

大自然芽ぶく守護や早春賦

▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)



三月に入り、ウグイスの声を聞くと「ああ、春が来たなあ」と穏やかに平和な春の到来を感じ、心まで温かくなる。

でも一年前を振り返ると、同じように始まった春も、三月十一日に起きた東日本大震災によって、日本中

が大きな衝撃と大きな悲しみに包まれた。あれから一年が経つ。マグニチュード九・〇という巨大地震によって押し寄せた大津波は、改めて自然の大きな力を示した。そして、甚大な被害を与え、掛替えの無いものを奪ったが、多くの人に「たすけ合い」の大切さ、互いの「絆」を深め合うことの大事さを気づかせてくれた。殊にお道の者は「わが事」と受け止め神様の思召を思案し、心の向きを正すことが大事と御教示頂いた。初めは大変な事と思ひ、自分なりに何かできることはないかと努めたように思う。しかし、一年経った今はどうだろうか？ どれだけ心の向きを正せているだろうか？ 気が付けば、目先の事に終始している自分がある。被災された方々は心を切りかえ、今なお大きな困難に立ち向かい懸命に立ち上がろうとされている。「わが事」として思案することを忘れてはならない。三月は、温かきを受け止めさせてもらおうと共に、厳しく神様の思召を受け止めさせてもらおう月であろう。

(は)